

6月9日 午後

「沖縄と本土」 永積安明氏

沖縄の問題を捉える時、日本人の内面の問題として追及することも大切である。  
~~「史的」~~ 史的な積み重ねがあり、  
人間的な連帯感、~~一体感~~ 一体感がある。それには、史的  
沖縄と本土とは

積みかさねがあることを指摘する。  
簡単に言えば、復帰問題が東洋行に13日 米口の極東  
沖縄の

政策があるには勿論だが、沖縄と本土との断絶の深さ根  
には、史的に蓄積された断絶の深さがある。

と、史的断絶の結節点、エピソード

① 1609年(慶長14年) 島津の侵入  
サツマ + 王家 + 役人の三重の税 しゃぶたつが行われる  
苛酷な人头税。

本土と沖縄の差別、沖縄本島とさき島、離島差別も  
ある。異国地帯という假構を幕府は強制

② 明治琉球処分(第二琉球処分)  
日本の富国強兵の近代化へのくみこみ。本土からのしゃぶ  
たつは早かつたが、人権はみよめ、近代化された型での  
同じ差別。

③ 第三回琉球処分 ... 平和條約第三條は沖縄人の  
意見をきかずに行われた、第一、第二処分におとらぬもの。

④ 第四回 ... 核つき返還というくみこみ  
沖縄のギセイでの本土の安全保証。

最初の史的な処分 ~~海軍~~ <sup>いらいいきつが</sup> 人為的假構 ~~の~~ 固定化と  
伝統化が行われた

よして政治的假構が現在強化され、連続の意識・実像が  
意識化されず、假構が顕在化され、~~PKUの沖縄政策~~  
~~は、PKUの沖縄政策~~、~~PKUの沖縄政策~~  
~~PKUの沖縄政策~~、~~PKUの沖縄政策~~  
しかし、かかる政治的作爲にかかわらず、連続性<sup>が存在するとは</sup>  
明瞭な言語の姉妹性、共通性を見よ。  
例として、  
沖縄の便りから見ると民族の共通性は強く意識されている  
差別感<sup>は</sup>、沖縄内部にもあり、それは意識的につくられる。  
本土から沖縄へ  
これをどう解決するかという点、沖縄の歴史、文化の評価の  
180°転換が必要である。沖縄が日本文化の原像を示し  
「のみならず」独自の発展を示していることにちやうどくすべしである。  
本来あつた連続性を基本におき、「ちやうど断絶も多様性の  
発展として~~文化~~も捉え直さねばならぬ。  
こと